

お便りください

このコーナーは、皆さんの意見や地域の問題をお届けしています
広報広聴課 ☎51-0123 内線2822へご連絡ください

市長への
手紙から

近くに公園をつくってほしい

今回は、厚原にお住まいの竹内さんから、公園の整備についてお手紙をいただきましたので、ご紹介します。

【市長への手紙】から】

富士市には昭和三十七年から住民として暮らしています。子育てを終え、夫の定年を迎え、現在は孫育ての年代となりました。子育て中は慌ただしく、どう過ごしていたのかと振り返ってみても、過ぎし日は戻りません。今また、生活の中に幼児がまわりつく年代となり、散歩や日だまりの中で遊ぶ時間が持てることを喜んでいきます。

しかし、私の住む地区には子供の遊び場らしき場所が見当たりません（広見公園までは車でしか行けません）。少しでもいいから遊具を備えてあり、また暑さを遮る木陰がある広場が近くにあると、幼児ばかりでなくお年寄りにもいいなあと、周囲に広々と草の茂る休耕地を眺めながらため息をついています。なかなか簡単なこととは思いませんが、将来を背負う子供たちの健全育成を考えて、ぜひ自然と



竹内幸子さん

ふれ合える公園をつくってほしいと思います。

【市長からの回答】

近くに子供の遊べる公園をつくってほしいとのことですが、同様のお手紙をたくさんいただいています。富士市としても公園のない地区には地域住民の憩いの場として、計画的に公園の整備を図るよう努力しています。しかし、用地の問題を含め、公園整備にはかなりの時間がかかりますのでご理解ください。

お尋ねの厚原地区の公園ですが、現在厚原スポーツ公園が整備されていますので、ご利用いただきたいと思います。また、鷹岡地区では、第二東名自動車道建設に伴い（仮称）入山瀬緑地（公園）の計画があり、第二東名の完成に合わせて公園も整備していききたいと考えています。

★問い合わせ★

みどりの課 内線二六六三

ブリームアップ

ふじ



石井さん一家の新聞が、全国で特別賞を受賞

’98全国新年号機関紙誌コンクリールのファミリー紙の部で、石井昌子さん一家（大淵）制作の「六人かぞくしんぶん」第二十九号が特別賞のファミリー賞を受賞しました。

石井さん一家は、夫婦と子供四人（中三、中一、小五、小二）の六人家族。「六人かぞくしんぶん」の創刊は、平成三年三月。



石井さん一家

四人目の子供が生まれたのを機に、昌子さんが育児日記のかわりに新聞として記録していけば、楽しく子育てができるかなという思いから書き始めたと言います。これまでに三十号を発行。第一号からつづったものが冷蔵庫に張ってあり、いつでも見られるようになっていきます。また、親戚や遠い友達にも近況報告を兼ねて手紙がわりに送っているとのこと。

昌子さんは、「新聞の内容は、我が家の十大ニュースや子供たちが担当するキッズコーナーなど、家族の身近なことが中心で気軽なもの。家族みんなで書いて

ていることが楽しいんですよ。また、子供たちの成長ぶりが記録として残る楽しみもあります。それに新聞のおかげでみんなの気持ちやわかり合え、家族のコミュニケーションをとるための役にも立っていますね。子供たちには今回の受賞が刺激になったみたいで、これを機に子供たちにもっと文章など分担してもらえらるといいなと思っています。今後、子供たちの年齢に応じて新聞の内容は変わっていくと思いますが、できる範囲で長く続けられたらいいですね」と話してくれました。